



学年末における小学校算数科の学習指導

～知識・技能の確実な習得に向けて～

今号では、年度末における小学校算数の学習指導について、児童が知識・技能を確実に習得するために、**系統性を意識した学年をまたいだ学び直し**の取組例を紹介します。

岡山県学力・学習状況調査結果から

小3から学年が上がるにつれて標準スコアが下降しているが、中1（小6の学習内容）では標準スコアが50を上回っている。

R 8 県調査の結果（算数・数学）			
小3	小4	小5	中1
49.9	49.7	48.5	50.2

学年末に、小学校で学んだ内容を**系統性を意識して学年を越えて学び直した**から、理解が深まったと考えられます。



※ 数値は標準スコア
（全国の平均正答率を50とした時の換算値）

教科書巻末にあるまとめの問題を6年生と1～5年生で比較すると、1～5年生の教科書では、当該学年の内容の問題が中心であるのに対して、6年生の教科書では、「数と計算」「図形」などの内容別に、**学年をまたいだ**問題が出題されています。

6年生のまとめの問題	1～5年生のまとめの問題
当該学年の内容 + 系統性を意識した内容	当該学年の内容が中心



このことから1～5学年でも当該学年の内容を学び直す際に、**関連する下学年の内容を学び直す**ことで、知識・技能の確実な習得を図ることができると考えられます。

取組例① 現学年の内容に関連する下学年の問題を準備する（5年生の場合）

5年生のまとめの問題	4年生のまとめの問題	3年生までのまとめの問題
当該学年の内容	系統性を意識した内容	系統性を意識した内容
・整数と小数	・小数	・整数
・合同な図形	・垂直・平行と四角形	・三角形と四角形
・割合	・簡単な場合についての割合	・わり算
・角柱と円柱	・直方体と立方体	・長方形と正方形



児童が必要に応じて「5年生のまとめの問題」と**下学年の教科書の「各学年のまとめの問題」**を**組み合わせて学び直す**ことで、**系統性を意識する**ことができますね。

取組例② 下学年の内容を当該学年の視点から学び直す機会を設定する（4年生「図形」の場合）

4年生「図形」の問題	2年生「図形」の問題
当該学年の内容	系統性を意識した内容
・平行四辺形、ひし形、台形 → 辺の平行、垂直の関係に着目し、図形の構成の仕方について考える。	・長方形、正方形 → 辺の数や長さ、直角に着目して、図形についての理解を深める。



4年生「図形」の内容と同時に**2年生「図形」で学習した正方形、長方形を当該学年の視点から捉え直す**ことで、児童が図形についての**知識をより深める**ことが期待されます。



学年をまたいだ学び直しを行うことで、**系統性を意識し、知識・技能の確実な習得**が期待できます。当該学年で学ぶ内容の復習にとどまらず、系統性を意識した下学年で学ぶ内容の復習ができるようにし、学年末の指導の充実を図りましょう。